

	担当	教育のねらい・目標	研修テーマ	目的	目標	レポートテーマ	研修予定
レベルⅠ		組織の一員として職場に適応し、指導の下で安全な看護を提供するために必要な基本的知識・技術を習得する	新採用者オリエンテーション	1) 国立病院機構職員の役割と組織を知り、職業人・社会人としての自覚をもつ 2) 演習を通して基礎看護技術を学び、実践に活かす	1. 国立病院機構及び当院について基礎的な内容を理解する 2. 講義や演習を通して、看護師として必要な知識・技術を学ぶ	その人らしさを支える看護とは（看護観）	4/1,2,3,4
			夜間見学実習	患者の状況に応じた活動・休息の援助を理解することが出来る (4月中旬以降)	1. 日勤から就寝までの患者の過ごし方がわかる 2. 就寝に向けてどのような援助を行っているかがわかる		4/15～
			スキルアップ①	看護基準・手順に沿った看護を実践する	1. 看護手順の遵守を理解する 2. 演習で安全な看護技術を習得する 3. 看護手順に沿った看護実践を、意識した行動につなげる		4月24日
			夜勤前	夜勤に向けて必要な準備がイメージできる 急変時の対応ができる	1. 身体の整え方がわかる 1. 夜間の身体の変化を知り、勤務前の体調管理について理解する 2. 夜勤に向けて、事前に準備しておくことがわかる 3. 搬送相の重要性が分かり、行動につなげることができる 4. BLSの基本が理解できる		5月14日
			スキルアップ②	輸液療法を受ける患者の看護と輸液ポンプの取り扱いを習得し、実践に活かすことができる	1. 状況に応じた輸液ルートの選択ができる 2. 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法が分かる 3. 持続点滴を受ける患者の観察ができる		5月21日
			リフレッシュ研修	同期入職者と仲間作りをすすめ、心身をリフレッシュする	1. 同期と語り合い不安が軽減出来る 2. 心身共にリフレッシュすることができる		6月6日
			フィジカルアセスメント(呼吸)	データベースを活用して健康状態をアセスメントすることができる 気管カニューレ挿入中の看護実践、気管カニューレ事故除去時の対応を実践できる	1. フィジカルアセスメントの意義・目的を理解することができる 2. フィジカルイグザミネーションの基本技術がわかる 3. フィジカルイグザミネーションを使用して観察することができる 4. 気管切開の合併症について理解することができる 5. 気管かめーれ挿入の単純気管切開と喉頭腫脹について理解することができる 6. 気管カニューレ事故除去時の初期対応ができる		7月4日
			医療安全研修	マニュアルを理解した行動ができる	1. 医療安全管理マニュアル・院内感染防止マニュアルに基づいた行動の重要性について理解できる 2. 自施設の危機管理対策を理解し、助言を援けて行動に結び付けることができる 3. KYTIによって危険を察知する能力が高めることが出来る		7月22日
			スキルアップ③	データベースを活用して健康状態をアセスメントすることができる 心電図の装着、心電図波形の正常・異常が理解できる	1. フィジカルアセスメントの意義・目的を理解することができる 2. フィジカルイグザミネーションを使用して観察することができる 3. 心電図の装着について理解することができる 4. 心電図波形の正常・異常が理解できる		9月22日
			安全な看護の提供と優先順位	複数の患者に対して安全な看護を提供するために必要な能力を養う	1. 安全に配慮した優先順位の判断について理解する 2. 必要に応じた報告・連絡・相談がわかる		10月8日
			看護倫理	専門職業人としての使命と心構えを持ち、多様な価値観・信条や生活背景をもつ人を尊重した行動ができる	1. 専門職業人としての職業倫理がわかる 2. 看護師の責任とは何かを理解することで、患者にとっての最善とは何かを考えることができる		11月12日
			受け持ち患者の看護展開	受け持ち患者の看護計画の立案・実施ができる	1. 看護記録記載基準の理解と基準に沿った記録ができる 2. 受け持ち患者の看護計画を立案し、実施と修正ができる		12月10日
			看護実践の振り返り発表	心に残った看護場面を振り返り、1年間の成長を実感することができる。	1. 心に残った看護を振り返り、自分の言葉で表現する 2. 他者の振り返りを聞き、自己の学びを深める		2月13日
			院内留学 (希望者対象)	自部署では経験することが難しい基礎看護技術を体験し、知識を深める	採用1年以内に習得が望ましい看護技術を体験または実践できる		6～2月
レベルⅡ		根拠に基づいた看護実践を行い、看護過程の展開を通して、自己の看護観を高める	ケーススタディに必要な知識を学ぶ①	ケーススタディを通してエビデンスに基づく看護実践の仕方を学ぶ	1. ケーススタディの目的を理解できる 2. ケーススタディを作成するための年間計画が立てられる 3. ケーススタディのテーマ選定方法がわかる	エビデンスに基づいた看護とは（ケーススタディ）	6月11日
			ケーススタディに必要な知識を学ぶ②	文献検索の方法を知り、根拠ある看護実践に活かすことができる	1. 文献検索の方法がわかる 2. 文献検索ができ、必要な情報を得ることが出来る	7月(OJT)	
			リフレクション	看護実践場面で「気づき」に対し、リフレクションを行うことで倫理的感性を高めることができる	1. 看護と倫理について再認識出来る 2. 実践場面を振り返り、倫理的問題が潜む「気づき」について考える 3. リフレクション事例を通して倫理と看護について理解できる	7月8日	
			役割遂行	看護チーム内での役割を遂行する	1. 看護チーム内での情報共有ができる 2. 他職種協働の必要性に気づける 3. 医師の治療方針を理解し、患者の訴え等の情報を提供できる	9月9日	
			ケーススタディに必要な知識を学ぶ③	ケーススタディの書き方がわかり、発表のための準備をスムーズに取り掛かることができる	1. 研究的視点をもとに、看護実践における課題解決行動ができる 2. ケーススタディの書き方・発表に向けてのパワーポイントの作成・口頭発表につなげる知識を得る	10月(OJT)	
			ケーススタディ発表会	ケーススタディの発表を通して自己の看護を深め、科学的根拠に基づく自己の看護を発表できる	1. ケーススタディを通して自己の看護を表現する 2. ケーススタディの発表を通して、学びを共有する	1月26日	

レベルⅢ		看護チームの一員として役割を發揮するために必要な知識を習得し、看護実践者としての能力を高める	役割遂行	受け持ち患者の看護を展開する中で、患者の問題に対して的確な報告・連絡・指示方針の伝達ができる	1. 受け持ち患者の問題を提案し、カンファレンスで問題解決に向けた発言ができる 2. 必要な報告・連絡が的確に行える 3. 指示・方針をメンバーで共有できる 4. 受け持ち患者の看護をチームで展開するためのコミュニケーションを理解する	自部署の看護力を高めるための自己の役割遂行	5月13日	
			リーダーシップ	看護チームの一員として役割を發揮するために必要な知識を習得し、後輩育成のためのスキルを理解できる	1. 実践報告と意見交換を通して、リーダーシップについての学びを深める 2. 問題解決のために、他職種と協働する重要性が理解できる 3. 他職種との協働において看護師の役割が理解出来る 4. コンサルテーション方法と種々な情報について理解できる			7月28日
			倫理研修	医療倫理・看護倫理上の問題に気づき、問題提起する	1. 患者の権利に関連した問題に気づける 2. 倫理に基づいた自発的な行動がわかる			9月9日
			協働する力	多職種と協働し、看護の役割を發揮するために必要な知識・コンサルテーションについて理解する	1. 問題解決のために多職種と協働する重要性を理解出来る 2. 多職種との協働において看護師の役割が理解出来る 3. コンサルテーション方法と必要な情報について理解出来る			11月19日
			レポート	自己の役割を發揮した看護場面を振り返り、自己の学びを深める	自己の役割を發揮した看護場面を表現する			1月中
レベルⅣ		看護チームにおけるリーダー役割を理解し、後輩の学習を支援するために必要なスキルの習得を行い、組織における役割遂行に寄与する	リーダーの役割	看護チームにおけるリーダー役割を知り、スタッフや後輩の力を引き出すために必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ	1. 看護チームにおけるリーダー役割を理解する 2. コーディングについて知り、コーディングを体験する	意思決定を支える看護とは	6月6日	
			意思決定支援	倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動がとれる 高度かつ複雑な看護を必要とする状態の患者及び家族に対し、適切な説明と助言を来ない意思決定の支援を行う	1. 意思決定プロセスを理解し、適切な看護ケアに繋げる 2. 意思決定プロセスの促進のために、適切なリソースを用いて支援する方法を理解する			9月17日
			倫理研修	倫理的問題の解決に向け、権利擁護に向けた行動をとる 高度かつ複雑な看護を必要とする状態の患者及び家族に対し、適切な説明と助言を来ない意思決定の支援をする	倫理的問題が潜む事例について、4分割法を用いて情報を整理し、倫理原則に基づいて倫理的問題が考えられる			10月14日
			リフレクション	自己のキャリア形成について具体的な展望を持ち、主体的に自己研鑽する	1. リフレクションを用いて看護の振り返りを行い、他者にプレゼンテーションできる 2. 自己で意思決定し責任ある行動をとれる			12月17日
			レポート	自己の看護実践での経験をリフレクションし、経験をより質の高い看護実践や自己成長に生かす	看護実践での経験をリフレクションし表現する			1月中
レベルⅤ前期		専門性の発揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究的に取り組む	看護研究①	臨床看護研究に取り組む	1. 看護研究についてマニュアルに準じて計画的に進める	自部署の看護サービスを向上させるための自己の取り組み	4月22日	
			看護研究②	臨床看護研究に取り組む	1. 看護研究計画書の作成ができる 2. 倫理審査委員の準備がわかる			5月26日
			看護研究③	臨床看護研究発表	1. 看護研究を発表できる			2月24日
レベルⅤ後期		病院経営に参画し、看護マネジメントができる	問題解決行動①(QC手法)	1. 自部署の問題解決に取り組むための方策がわかる 2. どのようにスタッフを巻き込んで問題解決を図っていけばよいかわかる 3. 自部署の課題に対し、他部門と調整しながら解決行動をとる	1. 職場の問題提起ができる 2. 継続的に入る具体的な方策をスタッフを巻き込み立案する重要性が分かる	自部署の看護サービスを向上させるための自己の取り組み	6月4日	
			問題解決行動②(RCA分析)		インシデントやアクシデントの根本原因の分析手法を探学び、再発を防ぐための問題対策を考えることができる			9月26日
			病院経営と看護		1. 経営への参画方法を理解し、自施設の経営改善に向けた働きを知ることが出来る 2. 病院が担う課題と看護として集積を改善する内容を考えることができる			10月17日
			問題解決行動④(SWOT分析)		1. 医療の動向に関心を持ち、情報収集の仕方がわかる 2. 地域における自施設の看護の役割を自覚し、改善に向けた提案の必要性がわかる 3. 病院組織の一員として自部署の課題の評価と見直しの重要性がわかる			11月5日
			問題解決行動成果発表		1. 自部署の看護サービスを向上させるための取り組み内容を表現できる(発表会)			1月29日

★幹部任用候補者研修受講コース 国立病院機構のリーダーとして必要な知識を習得する

1. e-learningの受講、幹部任用候補者選考試験

*ダイヤモンドナース研修(案)

対象者:当院看護部に所属する40歳以上の看護師で、ACTy研修対象ではない

担当	教育のねらい・目標	研修テーマ	目的	目標	レポートテーマ	研修予定
ダイヤモンドナース	1. 自分が大切にしている看護を語り、生き生きと働き続けることができる 2. 組織における自己の役割を自覚する 3. 教育の現状を知り、後輩育成に積極的に参加できる	ダイヤモンドナースの役割	看護チームの中でダイヤモンドナースとしての役割を自覚し行動する	1. ダイヤモンドナースの枠割が理解できる 2. 自分が大切にしている看護を言語化する		5月27日
		倫理研修	自部署に潜む倫理的問題について考える	1. 自部署に潜む倫理的問題を探る 2. 原因と対策を考える		7月31日
		メンタルヘルス	メンタルヘルスについての理解を深め、自分も他者も大切に行動が理解できる	1. メンタルヘルスについて正しく理解できる 2. 自分自身を見つめ、ストレスの対処がわかる 3. 他者を気遣う行動がわかる		10月23日
		キャリアアンカーについて	生き生きと働き続けるために、自分がとる行動を理解する	1. 組織が自分に期待することが理解できる 2. 自分自身の看護のやりがい明確にできる		2月4日